

# 花卉業界の活性化に向けて

花卉園芸学研究室 学部4年

下重野乃香

## 花との出会い

私が、花の存在を意識し始めたのは、幼稚園年長の頃にまで遡ります。同居していた祖父が突然事故で亡くなったのです。おじいちゃん子だった私は、公園と一緒に散歩していた祖父が突然居なくなった、ということが全く理解できませんでした。

悲しみに暮れる私たち家族の心を慰めたのは、「花」の存在でした。幼かった私は、祖父の葬儀で沢山の花を目にし、花に興味を持つようになりました。

小学生の頃の将来の夢は「お花屋さん」でした。そんな私に、母は千葉大学園芸学部存在を教えてくださいました。高校生になると、千葉大学に進学するために、意識して勉強に取り組みました。

そして私は、大学受験を乗り越え、千葉大学園芸学部に入学することとなりました。

## 花卉園芸学研究グループの「今」

柏の葉キャンパスを拠点とする花卉園芸学研究グループは、現在、博士課程2年1名、学部4年2名、学部3年4名、学部2年(園芸産業創発学プログラム)2名、計9名の学生が在籍しています。本年4月1日には、花卉園芸学研究グループの指導教員である渡辺均先生が教授に就任され、同7月20日には、教授就任記念パーティーが盛大に開催されました。

現在在籍している学生の研究テーマとして、トルコギキョウやカリブラコア、シクラメンなどの「花卉」、ミゾカクシなどの「薬用植物」が挙げられますが、その具体的な研究内容は多様性に富んでいます。

## 研究室で学んだこと

私が研究室生活の中で学んだことは数えきれないのですが、今回は2点ご紹介致します。

1点目は、「花卉業界の幅広さ」です。当研究室では、週1回、千葉大学環境健康フィールド科学センター花卉苗生産部の一員として、実習を行います。例えば、冬花壇の代表花であるパンジーを1ポット作るにも、発芽率・発芽勢が良い種子を大量生産する種苗会社、求められている品質の植物体を必要な分だけ栽培するための生産者、出来上がったパンジーを運搬するための運送会社、パンジーを小売業者に届ける市場などが関連しています。今まで、無知な私は「お花屋さん」という目に見える職業に注目しがちでしたが、研究室の生活を通して、花卉業界の目に見えない部分

の職業に非常に興味を持つようになりました。

2点目は、「相手の立場に立って物事を考え行動することの大切さ」です。当研究室では、2週間に1回、ゼミを行っており、自身の研究内容に関連する英語論文を読み、その内容についてディスカッションしています。論文を読んだ学生は、内容を正確に把握した上で、重要な部分をピックアップし、その実験に携わっていない学生や教員の方々に理解してもらえるようなパワーポイントを作る必要があります。また、当研究室では、毎週金曜日に、学生が交代で「千葉大学 花卉・苗生産ブログ」を更新します。このブログの更新でも、読みやすい記事を作成し、明瞭な写真を添える必要があります。どのような相手に対しても、わかりやすく説明する努力をすることは非常に重要であり、社会人として働く上で欠かせない能力であると改めて気づかされました。

## 花卉業界の活性化に向けて

花卉園芸学研究グループで生活していると、花卉業界の様々な方々とお話しさせていただく機会があります。また、母の日の「鉢花直売会」、文化の日の「センター祭」、大学祭である「戸定祭」、毎年恒例の「シクラメン祭」では、生産者の立場に立ち、直接消費者の方とお話しする機会もあります。

このような花卉園芸学研究グループでの経験から、花の魅力を多くの人に伝えたいと考え、私は、花卉業界へ就職する運びとなりました。卒業まで、自身の研究植物と正面から向き合い続け、卒業後は、当研究室で学んだことを活かし、花卉業界全体の活性化に向けて広く貢献していきたいと考えています。



研究室メンバーと